

ISHU HAN

PUBLICNESS OF THE ART CENTER

PHASE II

October 26 2019 – January 26 2020

Contemporary Art Gallery
Art Tower Mito

OPEN HOURS: 9:30–18:00 *no admittance after 17:30
Closed on Mondays, Nov.5,
New Year Holidays (Dec.27-Jan.3), and Jan.14
*open on Nov. 4 and Jan. 13
Admission: ¥900
¥700 for advance ticket and group of more than 20 people
Free of charge for high school student, seniors over 70,
the disabled and one accompanying attendant
*Student card or other identification with age required
One-year Pass: ¥2,000
First Friday: student card holders and
seniors 65 to 69 get a discount rate of ¥100
each first Friday (Nov. 1, Dec. 6)

ART TOWER

HAROLD OFFEH

YUKO MOHRI

HAJI OH

SUENAGA

OSAMU JAREO

EMMANUELLE LAINÉ

展示と対話のプログラム 第II期

アートセンターをひらく

2019年10月26日(土)–2020年1月26日(日)

水戸芸術館現代美術ギャラリー

【開催時間】9:30–18:00 ※入場は17:30まで

【休館日】月曜日、11/5(火)、

年末年始(12/27(金)–1/3(金)、1/14(火))

※ただし、11/4(月・振)、2020年1/13(月・祝)は開館

【入場料】一般900円 前売・団体(20名以上)700円

※高校生以下、70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と

付き添いの方1名は無料

◎一年間有効フリーパス「年間パス」2,000円

◎学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

学生証をお持ちの方と65歳–69歳の方は

毎月第1金曜日(11月1日、12月6日)100円

水戸芸術館
ART TOWER MITO

【主催】
公益財団法人
水戸市芸術振興財団

【後援】
ブリティッシュ・カウンシル

【助成】
アンステイチュ・フランセ パリ本部
在日フランス大使館/
アンステイチュ・フランセ日本
グレートブリテン・ササカワ財団
芸術文化振興基金

【協力】
サントリーホールディングス株式会社

【企画】
竹久直(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

ORGANIZER:
Mito Arts Foundation

IN ASSOCIATION WITH:
British Council

GRANT:
Institut français
Embassy of France /
Institut français du Japon
The Great Britain Sasakawa Foundation
The Japan Arts Council

SUPPORT:
Suntory Holdings Limited

CURATOR:
Yuu Takehisa
Senior Curator,
Contemporary Art Center, Art Tower Mito

【概要】

展覧会名：アートセンターをひらく 第II期

会 期：2019年10月26日（土）～2020年1月26日（日）

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出品作家：呉夏枝、ハロルド・オフエイ、砂連尾理、末永史尚、潘逸舟、毛利悠子、
エマニュエル・レネ

開館時間：9:30～18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日、11月5日（火）、年末年始（12月27日（金）～1月3日（金））、
1月14日（火） ＊ただし、11月4日（月・振）、1月13日（月・祝）は開館

入場料：一般900円、前売・団体（20名以上）700円

高校生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第一金曜日

（11月1日、12月6日）100円

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

後 援：ブリティッシュ・カウンシル

助 成：アンスティチュ・フランセパリ本部

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

グレートブリテン・ササカワ財団

芸術文化振興基金

協 力：サントリーホールディングス株式会社、

株式会社DNP フォトイメージングジャパン、社会福祉法人 潮福社会

企 画：竹久 侑（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

2020 年に開館 30 周年を迎える水戸芸術館現代美術センターは、移り変わる社会の中で今アートセンターに求められる役割を探る企画「アートセンターをひらく」を 2 期に分けて実施しています。2019 年 3 月から 5 月にかけて行った第 1 期では、アートセンターを「アートが生まれる場」と捉えなおし、ギャラリーをアーティストや来場者の「創作と対話」のために活用しました。第 2 期では、展覧会を軸に、対話とさまざまな活動を育む場としてギャラリーを活用します。

本展覧会では、第 1 期にて 1 カ月の滞在制作を行った招聘アーティスト 6 名が地域や当館をリサーチし、市民の協力を得て制作した新作を発表します。また、第 1 期から継続中の砂連尾理による対話と身体表現のワークショップ「変身」の様子を公開し、最終発表を行います。

ギャラリー内のワークショップ室には人気の「カフェ」が 12 月 5 日から出現！さまざまな人々が思い思いに過ごし、出会い、活動できる場を設けます。作品をきっかけに対話や関わりが生まれ、次へとつながりうる社会的な場としてアートセンターをひらくことで、今求められるアートセンターの役割を実践的に探ります。

【本展のポイント】

「アートセンターをひらく 第 2 期」では、展覧会を軸に、ギャラリーを次のように活用することで、アートセンターに期待される役割を探り、次なるステップを描きます。

○ アーティストによる滞在制作が新作としてここに結実します

本展で発表する 6 名のアーティストは、いずれも 2019 年 3 月から 5 月にかけて開催した「アートセンターをひらく 第 1 期」にて、水戸に 1 カ月間滞在し、新作のためのリサーチやスタディー、撮影や収録などを行いました。ギャラリーをスタジオとして活用した滞在制作に始まり、そこからさらに醸成された新作がここに結実します。

○ 長期ワークショップが最終発表の場を迎えます

砂連尾理（ダンサー／振付家）と参加者約 20 名は、2019 年 3 月から継続的に毎月 1~2 回の頻度で、「変身」をテーマにしたワークショップを行ってきました。障害、老い、母親になること……それぞれにとっての「変身」について対話し、それをもとにグループワークで身体表現へと転換しています。会期中、このワークショップを公開で実施し、会期終盤には最終発表を行います。

○ アートセンターを対話の場としてひらきます

コミュニケーションの手段が急速に変化する今日、実際に人と人が対面で言葉を交わす公共的な空間に着目します。第 1 期では、「いま、必要な場所」や「学びとは何か」をテーマに、また介護や看取りについて語り合う場を設けたところ、参加者から多様な発言があり、対話の場をひらくことの重要性が確認されました。第 2 期では、作品の示すさまざまな事柄をピックアップし、それらについて対話するプログラムを実施します。

○ アートセンターを「第 3 の場所」としてひらきます

2004 年以来、当センターの教育プログラムの一環で毎春開設してきた特設カフェは、いろいろな価値観をもつ人びとが行き交い、自身や他者と出会うプラットフォームとして機能してきました。本展では、第 1 期にひきつづき、家庭、学校／職場に次ぐ第 3 の場所として、一人でも家族でも、また年齢や障害の有無を問わず、思い思いに過ごせる社会的なつながりの場としてカフェをひらきます。また、来館者による自主的な活動を受け入れ、育む場としてもカフェを活用します。

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご希望の方は鳥居 (cacpr@arttowermito.or.jp) までお問合せください。

1



2



3



4



5



6



7



1. 毛利悠子「Flutter」2018 撮影：Damian Griffiths 写真提供：Camden Arts Centre
2. 潘逸舟 タイトル未定 2019
3. 末永史尚「再配置できる絵画」2019 (参考図版)
4. 砂連尾理「変身」ワークショップ風景 2019 撮影：松本美枝子
5. エマニュエル・レネ「Willing Suspension of Belief」2019 撮影：Jean-Christophe Lett
6. 呉夏枝 タイトル未定 2019
7. ハロルド・オフエイ「Lounging」(くつろいだポーズ) 2017/2019 撮影：松本美枝子

【ひらくカフェ】

2004年から毎年春に行ってきた「高校生ウィーク」の無料カフェ。「アートセンターをひらく 第Ⅰ期」ではスタッフの対象を多世代に広げ、高校生からシニアまでのカフェ・スタッフが運営にあたりました。第Ⅰ期で好評だった「ひらくカフェ」を、第Ⅱ期ではワークショップ室に場所を移して、ひきつづき多世代・多目的の場としてひらきます。フルオープン後のカフェにはアーティスト関連書籍や推薦図書、裁縫・工作のための道具を常備。お茶会や部活動などさまざまな活動を行う場にもなります。セルフサービスで利用できるコーヒーやお茶を飲みながら、思い思いにお過ごしください。カフェスタッフも随時募集。詳細は後日ホームページでご案内します。



「高校生ウィーク 2018」カフェ風景、2018
撮影：川村麻純

期間：一プレオープン 11/1（金）～12/4（水）

関連プログラムや部活動の会場として利用したり、ご来館時の休憩所としてご利用いただけます。

一フルオープン：12/5（木）～1/26（日）※12/13（金）はあーとバスのためお休みします

オープン時間：火・木・金13:00～18:00、水：10:00～18:00、土・日・祝：10:00～18:00

※12/6・7・14は、あーとバスのためカフェが混雑する場合がございます。

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

■ 部活動

2007年から「高校生ウィーク」内の企画として始まった部活動「ブカツ@美術館」は、「3人寄ればブカツの提案ができる」をルールに、毎年若い世代と地域の大人やアーティスト、学芸員と一緒に自主的な活動を展開してきました。本展では、第Ⅰ期に発足したブカツを含め、「書く。部」や「ほんでたいわ部」他が活動します。会期中、新たにブカツが始まる場合もあります。

【関連企画】

[お申込] 10/1（火）受付開始

要申込プログラムのみ、ホームページの「アートセンターをひらく 第Ⅱ期」申込みフォームからご応募ください。<https://www.arttowermito.or.jp/>

※抽選のプログラムは、11/30×切、12/15までに当選者にのみお知らせします。

※ホームページからのお申込みが難しい場合は電話でお問合せください。Tel.029-227-8120

[参加費] とくに記載がないものは入場料に含まれます。

[対象] とくに記載がないものは、どなたでもご応募・ご参加いただけます。

■ ハロルド・オフエイによるトークパフォーマンス

滞在制作中、ジェームズ・ボールドウィンのエッセイ「Stranger In the Village」を着想源に移住者やLGBTQ当事者への取材を行ったハロルド・オフエイ。トークパフォーマンスでは、アーティストが自らの言葉や身振りで作品について語ります。[日英逐次通訳あり]

日時：10/26（土） 13:30～15:00

会場：現代美術ギャラリー 第4室

定員：30名（申込不要・先着順）※整理券を当日11:30から配布します。

■ レッツ校正！作品解説

鑑賞の手助けのために書かれる学芸員による作品解説。難しくてわかりにくかったことはありませんか？本展のために用意された解説文を、高校生の意見を聴きながら学芸員が書き直します。協力してくれる高校生ボランティアを募集！

日時：11/1（金）、8（金） 16:00～17:00

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

対象：高校生

定員：各日6名まで（要申込・先着順）

■ 砂連尾理「変身」ワークショップ

砂連尾理と参加者が「変身」をテーマに障害や老いなどについて語り合い、その対話を身体表現へと転換するワークショップを紹介します。第Ⅰ期から行われているワークショップの記録映像を展示するとともに、以下の日程でワークショップを公開して行います。

日時：11/9（土）・23（土）、12/7（土）・21（土）

1/11（土）・12（日）13:00～16:30頃

※途中休憩・延長の可能性あり

1/10（金）17:00～18:00

◎最終発表 1/13（月・祝）時間未定

会場：現代美術ギャラリー第7室

※公開ワークショップ実施中は、第7室の展示内容が変わります。



砂連尾理「変身」ワークショップの様子、2019
撮影：松本美枝子

■ 午後のお茶会

お茶やお菓子を楽しみながら、本展で展示されている作品が示すさまざまな事柄について、作家やゲストを交え語り合う場を設けます。会場は現代美術ギャラリーワークショップ室です。

▼呉夏枝との茶話会

第Ⅰ期で「日系国際結婚親睦会ニュースレター」の朗読会を行った呉さん。お茶会では、朗読会の参加者や会場から寄せられた「お便り」をもとに、作品にまつわる「記憶」や「語り」について掘り下げます。

日時：10/27（日）14:00～16:00

定員：15名（要申込・先着順）

▼末永史尚とタングラム・ペインティングを配置する

空間に合わせて組み換え可能な可変する絵画作品「タングラム・ペインティング」。あーとバスのガイドスタッフとアーティストと一緒に対話しながら作品の配置を考えます。

日時：11/24（日）14:00～16:00

定員：10名程度（要申込・先着順）

▼潘逸舟の知らない中国茶会

第Ⅰ期で潘さんの滞在先ホストだった高井英花さんをお招きし、二人の故郷である中国のお茶を楽しみながら、移り住むこと、異文化での暮らしについて世代の違いを巡りながら話しましょう。

日時：11/30（土）14:30～16:30

定員：20名程度（申込不要・先着順）

▼あなたにとっての「変身」とは？

障害や母親になったことなど各自の経験をもとに参加者同士で対話し身体表現を行ってきた「変身」ワークショップ。ここでもう一度門戸を広くひらいて、『目の見えない人は世界をどう見ているのか』の著者伊藤亜紗さんとともに新たな視点から対話しましょう。

日時：12/8（日）14:00～16:00

ゲスト：砂連尾理、伊藤亜紗（美学者）

定員：20名程度（申込不要・先着順）

▼韓国文学読書会『すべての、白いものたちの』

韓国にルーツをもつ呉夏枝さんの作品を鑑賞し、文学の視点を交えて語り合う読書会。『すべての、白いものたちの』（ハン・ガン、河出書房新社）を取り上げ、翻訳家の斎藤真理子さんと作品の感想や本を読んで考えたことについて語り合しましょう。

日時：12/15（日）14:00～16:00

ゲスト：斎藤真理子（翻訳家）

定員：15名（要申込・先着順）

▼それでどうする？アートセンター（仮）

第Ⅰ期からさまざまなかたちでアートセンターの役割をめぐる対話を行ってきました。第Ⅱ期の終盤にこれまでの話を振り返りながら、次なるアートセンター像をともに描きましょう。

日時：1/25（土）14:00～16:30

定員：20名程度（申込不要・先着順）

【展覧会関連 教育プログラム】

冬のこらぼ・らぼ

さまざまな人々と一緒に鑑賞することで、作品の多様な見方を探る鑑賞プログラムを行います。
参加費：高校生以下 500 円、一般 1,000 円 ※展覧会入場料を含む

▼よるのsession！

全盲の白鳥建二さんをナビゲーターに、見える人と見えない人が一緒に鑑賞するツアー

日時：12/13（金）18:30～20:00

定員：8名（要申込・先着順）

▼あーとバス番外編

あーとバスガイドスタッフと子どもも大人も一緒に鑑賞するツアー

日時：12/14（土）14:00～15:30

対象：小学生以上

定員：15名（要申込・先着順）

※あーとバスについては下記参照

▼こどもsession！

見える人と見えない人が一緒に鑑賞するツアーの小学生版

日時：1/18（土）11:00～12:00

対象：小学生

定員：5名（要申込・先着順）

▼美術と手話

聞こえない人・聞こえにくい人と聞こえる人が一緒に鑑賞するツアー

日時：1/19（日）14:00～16:00

定員：10名（要申込・抽選）



「session！」鑑賞風景、2018
撮影：佐藤理絵

ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：11/9（土）～2020/1/26（日）毎週土・日曜日 各日 14:30～（約40分）

※ただし12/7（土）・14（土）・22（日）、1/18（土）・19（日）は除く。都合により中止になる場合がございます。

あーとバス2019

水戸市内の小・中学生を対象に、当館が用意するバスで送迎する展覧会鑑賞ツアーを行います。

日程：12/4（水）～7（土）、13（金）

※当日はギャラリーが児童・生徒で混雑する場合がございます。あらかじめご了承ください。

※子どもたちと一緒に作品を鑑賞するガイドスタッフを募集中。詳細はお問合せください。（11月より研修開始）



自分のほうきをつくろう

「ほうき」は古今東西で使われてきた身近な生活の道具です。地域の暮らしと植生を生かした「ほうき」づくりの話を聞いた後、コキアを素材に自分の手で「ほうき」を作りましょう。

日時：1/12（日）、13（月・祝）各日 13:30～15:30

定員：各日 20名（要申込・先着順）

対象：小学生以上

参加費：高校生以下 500 円、大学生（または同年代）以上 1200 円（展覧会入場料を含む）

講師：筑波大学芸術学群宮原克人研究室

【出品作家 略歴】

呉夏枝 (おはぢ) 1976年大阪生まれ、ウロンゴン (オーストラリア) 在住
染織、刺繍、編む、結ぶなどの技術による制作を基点に、テキスタイルや写真、音声を
用いた空間的な作品を発表している。布にまつわる行為から、ワークショップや対
話を通じて、言葉にされることのなかった人びとの物語や生とともにある記憶を収集
し、自らの作品のモチーフへと展開する。近年の展示に「東アジア文化都市2018金沢『変
容する家』-Altering Home-」(2018 / 金沢市内)。2014年より、オーストラリア、日本、
韓国の間を、海を越えて渡った人びとの軌跡を調査し歴史と織り交ざった個人の物語
に目を向ける試みとして、連作「grand-mother island」プロジェクトに取り組んでいる。
小山市車屋美術館にて個展「手にたくす、糸へたくす」(会期: 2019年10月12日~
12月15日)を開催予定。



撮影: 草本利枝

Harold Offeh (ハロルド・オフエイ) 1977年アクラ (ガーナ) 生まれ、ケンブリッジ (英国)
在住

身体を通して見出される空間や場所にまつわる物語に関心を寄せ、大衆文化や社会現
象を引用した作品を制作する。パフォーマンスを軸とした遊び心あふれるその表現は、
笑いや参加をきっかけに、身体やアイデンティティの表象、または習慣やしぐさに隠
された問いを提起する。70、80年代ポピュラー音楽へのオマージュである連作「カバ
ーズ」をハーレム・スタジオ美術館(2014 / 米国)ほか各地で発表。2018年にはトロント (カ
ナダ) のニュー・ブランシュに招待され、同市のクイアカルチャーが辿った抑圧と解
放の歴史を掘り下げる作品を上演した。



砂連尾 理 (じゃれお おさむ) 1965年大阪生まれ、東京在住

1991年、寺田みさことダンスユニットを結成。2002年、「TOYOTA CHOREOGRAPHY
AWARD 2002」にて「次代を担う振付家賞」(グランプリ)、「オーディエンス賞」をW受賞。
2004年、京都市芸術文化特別奨励者。2008年度文化庁・在外研修員としてベルリン
に1年滞在。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの
「Thikwa+Junkan Project」、京都・舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」、宮城・閉上
の避難所生活者への取材が契機となった「猿とモルターレ」等を発表。2017年より、
父親の老いと病をきっかけに生の揺らぎをテーマとした「変身プロジェクト」を展開。
著書に『老人ホームで生まれた〈とつとつダンス〉—ダンスのような、介護のような—』
(晶文社)。



撮影: 三浦博之

末永史尚 (すえなが ふみなお) 1974年山口生まれ、東京在住

日常的に目にする物や、美術作品をとりまく状況や空間に目を向け、その視覚的な特
徴をもとにした絵画・立体作品を制作している。対象のイメージを写しとったり、そ
の特定の要素を拡大または抽出するなど、ありのままとは少し異なる対象の姿をみち
びきだすことで、描くことの本質的な意味をひらく連作に取り組んでいる。

主な展示に「APMoA Project, ARCH vol. 11 末永史尚『ミュージアムピース』」(2014 /
愛知県美術館)、「開館 40 周年記念 1974 第 1 部 1974 年に生まれて」(2014 / 群馬県
立近代美術館)。



潘逸舟 (はんいしゆ) 1987年上海生まれ、東京在住

等身大の個人の視点から、社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体
を用いたパフォーマンス性の高い映像作品、インスタレーション、写真、絵画など様々
なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアも交えながら表現している。主な
個展に「The Drifting Thinker」(2017 / 上海 MoCA パビリオン)、「私たちの条件」
(2017 / URANO、東京)、グループ展に「水と土の芸術祭 2018」(新潟)、「In the
Wake - Japanese Photographers Respond to 3/11」(2015 / ボストン美術館、米国)、
「Sights and Sounds: Highlights」(2016 / ジューイッシュミュージアム、米国)など。
日産アートアワード 2020 ファイナリスト。



毛利悠子 (もうりゆうこ) 1980年神奈川県生まれ、東京在住

磁力や重力、光など、目に見えず触れられない力をセンシングするインスタレーションを制作。個展「Voluta」(2018/カムデン・アーツ・センター、英国)、「毛利悠子：ただし抵抗はあるものとする」(2018/十和田市現代美術館)のほか、「アジア・パシフィック・トライアニュアル 2018」(オーストラリア)、「リヨン・ビエンナーレ 2017」(フランス)、「コーチ = ムジリス・ビエンナーレ 2016」(インド)、「ヨコハマトリエンナーレ 2014」(神奈川)など国内外の展覧会に多数参加。2015年に日産アートアワードグランプリ、2016年に神奈川文化賞未来賞、2017年に第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2015年、アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) のグランティとして渡米。



撮影：Naoko Maeda

Emmanuelle Lainé (エマニュエル・レネ) 1973年パリ生まれ、マルセイユ (フランス) 在住

展覧会ごとにその場特有の性質に着目し、その施設の属性や会場の建築的要素を取り込み、また、そこで働くスタッフの職場環境に取材するなどして、サイトスペシフィック・インスタレーションを制作。実寸大の写真に有機物や日用品など身近なものを組み合わせたインスタレーションは、ヨーロッパを中心に各地で発表されている。主な個展として、ヘイワード・ギャラリー/ヘニ・プロジェクト・スペース (2018/英国)、FRACシャンパーニュ・アルデンヌ (2018/フランス)、パレ・ド・トーキョー (2017/フランス)、主な国際展にリヨン・ビエンナーレ (2015/フランス) がある。



撮影：Pete Woodhead

【同時開催】

開館 30 周年記念事業

■ 磯崎 新一 水戸芸術館縁起一

建築家磯崎 新一による美術館設計を振り返るシリーズの一環として、当館では水戸芸術館の設計コンセプトや経緯について、資料を中心に紹介する小規模な展覧会を開催します。

会期：10月26日(土)～1月26日(日)

会場：現代美術ギャラリー第9室

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

企画：磯崎新アトリエ/水戸芸術館

※料金は展覧会入場料に含まれます。



■ 日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2019水戸」収穫祭

2005年の個展「日比野克彦の一人万博」をきっかけに全国に拡がった「明後日朝顔プロジェクト」を今年も開催しています。秋の種の収穫、春の苗植え、夏の開花という朝顔の育成を通して、人と人が出会い、地域と地域がゆるやかに繋がっていくプロジェクトです。来年に向け、水戸での記憶のつまった種を収穫します。また、朝顔の蔓で特大のクリスマスリースをつくり、当館エントランスホールに展示する予定です。

日 時：11月16日 (土) 10:00～17:00 (小雨決行。荒天時翌日順延)

会 場：広場回廊2階、水戸京成百貨店外壁

参加費：無料 ※参加ご希望の方は作業しやすい服装で回廊2階にお集りください。

主 催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団

特別協力：水戸21の会

協 力：茨城県立太子清流高等学校、サントリーホールディングス株式会社、株式会社水戸京成百貨店、公益社団法人水戸青年会議所、水戸商工会議所青年部



プレス向け内見会のお知らせ

2019年10月25日(金) 14:00～15:30 受付開始 13:30

場 所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：呉 夏枝、ハロルド・オフエイ、砂連尾 理、潘 逸舟、毛利悠子、
エマニュエル・レネ（予定）
竹久 侑（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）
後藤 桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8120/FAX 029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

* 展覧会・関連企画について：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

* 教育プログラムについて：森山純子、佐藤麻衣子（水戸芸術館現代美術センター教育プログラムコーディネーター）

* 広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail: cacpr@arttowermito.or.jp

* 詳細は公式ツイッター http://twitter.com/MITOGEI_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期を表記してください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館 代表番号 029-227-8111 をお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居（広報）までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることができない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野もあり）から常磐線特急で約72～84分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後バスの進行方向に進み、すぐの交差点で大通り（国道50号）を渡り、脇道をまっすぐお進みください。徒歩2分。

◎料金：特急片道3,820円／普通各停片道2,270円（2019年8月現在）

※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。JR東日本旅客鉄道 TEL 029-221-2836

<http://www.jreast.co.jp/>

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。

◎料金：東京駅～水戸駅片道切符2,080円。ツインチケット（2枚綴り回数乗車券3,900円）。（2019年8月現在）

※詳しくはこちらをご参照ください。茨城交通 TEL 029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面に約20分お進みください。国道349号との交差点「南町3丁目」で左折（左手にみずほ銀行があります。）、2つ目の信号を左折してください。そこから信号1つ過ぎた左側が水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場の出入り口です。

◎駐車場料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円／営業時間：7:00～23:00

※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。

東日本高速道路「ドラぶら」 TEL 0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>